

基本目標Ⅲ ワーク・ライフ・バランスの推進

重点課題1 ワーク・ライフ・バランスの啓発

【目標に対しての評価】 A・・・実施しており、成果をあげている B・・・実施しており、一定の成果をあげているが、課題も多い C・・・実施できなかった

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成26年度目標	評価	平成26年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成27年度目標	H27機構改革による担当課
1、家庭生活における男女共同参画の促進	①男性の家庭への参画を促す啓発活動	男性市民	社会教育課	家庭教育情報誌げんきつこfamilyの編集等に携わる家庭教育支援チームヘスティアメンバーへの意識付けと共に男性の家庭参画に関する記事のあり方について考える。	B	「家庭教育情報誌げんきつこfamily」(年4回発行中2回)でイクメンババを紹介。家庭教育支援チームヘスティアにおける4・5ヶ月検診での講座部絵本の読み聞かせの活動の際などにおいて、付き添いババへの育児に関する啓発を進めた。	家庭教育情報誌げんきつこfamilyの編集等に携わる家庭教育支援チームヘスティアメンバーへの意識付けと共に男性の家庭参画に関する記事のあり方について考える。	
			人権・男女共同推進室	市イベントなどでの街頭啓発をする。		文化センターでの『男の料理教室』の実施“ワークライフバランス”啓発として、夏祭りでの街頭啓発、及び研修会を実施した。	男女共同参画男性講座を開催する。	
			中央公民館	検討する。		取組みなし	男性参画について検討する。	
			紀見地区公民館	共に生きる意味、いたわり合う意識を高めることに気づき合える交流会を開催する。		家庭参画のきっかけ作りとして『男の料理教室(40～70歳代・7名)』を実施した。	男性の家庭への参画を意識し、さらに工夫する。	
			紀見北地区公民館	井戸端会議、陶芸教室、料理教室など開催する。		男性の家庭参画と社会参加を促すため、おやじのつどいⅠ「陶芸」(7名)おやじのつどいⅡ「料理」(9名)おやじのつどいⅢ「料理」(9名)を実施。	継続実施し、多くの男性への参加を呼びかける。	
			恋野地区公民館	現在の事業は継続実施で、団塊世代の人の居場所づくりを考えた事業を取り入れる。		プロに学ぼう料理教室(2ヶ月に1回)男女の参加で実施。キャンプファイアーは例年通り男性の参加も多く155名で開催。毎年いちご狩りを企画しているが、今年は男性の参加もよびかけ、お父さんと子どもの参加があった。	継続実施	
			学文路地区公民館	健康講座(料理教室)やイクジ事業を実施する。		イクメン、イクジ講座として健康講座のほか、そば打ちなどの料理教室(10回/118人参加)を実施し、半分近く男性の参加があった。	子育て支援、健全育成に関しては男性が前面に出てくれるので、共育コミュニティ本部との連携による事業を実施したい。	
			隅田地区公民館	より多くの家族が参加できるよう、実施日も含めて再検討し、引き続き実施する。		『いのちを育む授業・中学1年生との交流会・3回実施』(男性6名・女性81名・中学生93名・子ども64名・0歳～60歳台)は前年度より参加者が増え、男性の参加も若干であるが増えた。	男性参加を呼びかけ、継続実施する。	
			橋本地区公民館	料理教室に拘らず、乳幼児学級への父親やおじいちゃんの参加を勧める。		サークル活動として『お父さんの料理教室』実施。	男性向け事業の取り組みをする。	
			西部地区公民館	幅広く広報し、「グルメ倶楽部」を引き続き実施する。		2ヶ月に1回実施の「おっちゃん集合」は、仕事を卒業した団塊世代の男性が、誘い合い地域で話をする場になりつつある。	継続実施	
	高野口地区公民館	サークル活動の一環として家事に積極的に参画することを目的に「男の料理教室」を開催する。	「男の料理教室」(サークル活動)を実施。	引き続きサークル活動で「男の料理」を実施していくとともに、館行事として「男子会」を組織し、男女共同参画に向けた取組を行っていく。				
		いきいき長寿課(地域包括支援センター)	地域包括支援センター主催による介護技術習得研修会を開催する。(平成26年9月～、5回程度)	介護技術講習会を5回シリーズで開催したところ、24名参加があり、そのうち10名が男性であった。在宅介護ということを通して家庭へ参画するという点について男性の関心が伺えた。	継続実施する。講習会の中で、男女の意見交換も取り入れていきたい。			
	②職場と家庭の性別役割分担の変革のための啓発	企業等 雇用主	商工観光課	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・広く実施されるために機会があれば国への要望をする。	・総合的なパンフレットの配布をした。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	・橋本商工会議所、高野口町商工会、紀州繊維工業協同組合等経済団体に啓発、情報提供を行う。 ・各団体が発行する広報誌へ人権啓発についての掲載を検討する。		
	③育児・介護休暇の男性への普及啓発	企業等 雇用主 男性労働者 男性市職員	商工観光課 職員課	・経済団体等との一層の連携を図る。 取得率が低い男性職員向けに、イントラネット等を利用することにより、制度の情報発信を行う。	・総合的なパンフレットの配布をした。 ・育児・介護休業法の全面施行について市ホームページに掲載した。 ・対象となった職員に対して、職員課担当から制度の説明を個別に実施した。 ・イントラにイクメン啓発のパンフレット等を掲載した。	橋本商工会議所、高野口町商工会、紀州繊維工業協同組合等経済団体に啓発、研修会等開催の情報提供を行う。 取得率が低い男性職員向けに、引き続き制度の情報発信を行う。		
発の2の事、推業育進者児への介護知休と業啓法	①育児・介護休業法の事業者への周知	企業等 雇用主 労働者	商工観光課	経済団体等との一層の連携を図る。	C	育児・介護休業法の改正内容および全面施行について市ホームページに掲載した。	・橋本商工会議所、高野口町商工会、紀州繊維工業協同組合等経済団体に啓発、情報提供を行う。 ・各団体が発行する広報誌へ人権啓発についての掲載を検討する。	
	②時間外勤務、フレックスタイム、在宅勤務などの配慮について事業者への啓発	企業等 雇用主 労働者	商工観光課	経済団体等との一層の連携を図る。		・総合的なパンフレットの配布をした。	・橋本商工会議所、高野口町商工会、紀州繊維工業協同組合等経済団体に啓発、情報提供を行う。	

重点課題2 育児・介護サービスの充実

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成26年度目標	評価	平成26年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成27年度目標	H27機構改革による担当課	
1、 育児・ 介護情報 の提供	①情報の提供	市民 子育て中 の市民	こども課	ホームページの充実について検討する。	A	H27年度からの子ども・子育て支援新制度の開始に向け広報紙及びホームページにて周知 毎年4月に広報と同時に健康カレンダーを各戸配布している。橋本市報に「いのち」のテーマで健康について情報発信している。(H24より) ・H26.7いのち7「風疹から赤ちゃんを守ろう」 ・H26.11いのち8「運動していますか」 ・H27.3いのち9「太陽がんを考える」	ホームページの充実 スマートフォンによる情報提供 毎年4月に広報と同時に健康カレンダーを各戸配布する。引き続き橋本市報に「いのち」のテーマで健康について情報発信する。		
			健康課	広報はしもと「いのち」の掲載を引き続き実施する。					
		市民 介護中 の市民	いきいき長 寿課(地域 包括支援セ ンター)	関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。			広報さらに4月、7月、9月、10月、1月号において高齢者情報の発信を行った。介護予防教室等さまざまな機会において、情報の提供を行った。		関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。
			福祉課	円滑に相談事業を引き続き実施する。			各課と連携を取りながら、円滑に相談事業をすすめることができた。		引き続き円滑に相談事業をすすめる。
2、 子育て ・親支 援体制 の充実	①保育園・こども園・幼稚園の受入体制や保育サービス(時間延長・0歳時保育等)の充実	市民 子育て中 の市民	こども課	H27こども園整備に向けて取り組む。	B	H27年度へ向けてこども園化の統廃合、橋本さつき保育園の新設を進め、年度途中で0歳児の受入れを増やすことに取り組んだ。	新設したこども園、橋本さつき保育園を含めた市内乳幼児保育の充実	こども課	
			学校教育課	全幼稚園における預かり保育を引き続き実施する。		全幼稚園における預かり保育を実施した。(通常午後2時まで預かりであるが午後4時頃まで預かりを延長している。)	継続実施		
	市民 子育て中 の市民	こども課	実施方法を検討する。	運営団体への補助金交付をしている。		10団体が加盟するNPOが発足し、実施する。	教育総務課		
		市民 子育て中 の市民	こども課	新こども園新設に伴い、子育て支援センターの増設に向けて検討する。		・子育て支援拠点事業ひろば型としてこのほっとルームと高野口こども園、すみだこども園で事業実施した。センター型としてあやの台保育園で事業実施。 ・NPO法人に委託しファミリーサポートセンター事業を実施。利用実績1,173件。	新こども園新設に伴い、実試しながら子育て支援センターの充実をはかる。		
	市民 子育て中 の市民		社会教育課	思春期子育てセミナー(年間5回) 地域支援者養成講座(年間5回) 家庭教育支援チーム委嘱事業(家庭教育情報誌げんきっこfamilyの発行・講座・訪問等)		地域支援者養成講座(年5回) 子育て講座(年1回)	エンパワーメントの要素を持つことを意識化し、幅広い対象となるよう講座、セミナーを開催する。		
		市民 子育て中 の市民	健康課	・積極的、継続的に啓発をする。(電話や手紙、招待状の作成等) ・昨年度は年4回、ママパパ教室日曜日開催を実施した。その日の参加は多いことから、今年度は、実施内容を見直し、回数を年4回～3回に減らし、1回目に日曜日開催を変更。その時に、2回目の案内をとり、歯科と栄養につなげる等参加者の増やす方法を工夫する予定。 ・ツインバビィ<双子・三つ子を育てる親の交流会>に運営協力してくれる団体を募り、サークル開催時に毎回、母子保健推進員・ほっとシッター・家庭教育支援チームへスティアの中から当番を決めて支援してもらう。昨年度はこの体制で実施してきたが、参加人数が思うように増えなかった。しかし、双子・三つ子を育てるためには支援体制が必要なため、実施方法を見直し今年度も継続していく予定。		・乳児交流教室<第1子のみ> 市内各地区公民館で実施した対象298人中参加は延べ711人 ・ツインバビィ<双子・三つ子を育てる親の交流会>事務局と相談しながら運営はしているが、具体的には講演会での支援13人 ・地域の親子サークルからの依頼で講師として派遣13回 ・ママパパ教室12回延べ 妊婦103人、夫42人、その他(産婦・乳幼児)5人の参加 ・離乳食教室<前期>6回保護者83人の参加 ・離乳食教室<後期>6回保護者62人の参加 ・アトピー教室 2回保護者14人の参加 ・にこにこ歯磨き教室 12回保護者85人の参加 ・10か月児のフォロー教室 12回123人の参加	引き続き事業は実施予定。 ・健康課で実施していた乳児交流教室は、H27年度より、こども園の子育て支援センターと協働で実施する予定。そのことにより、乳児期からの関わりだけでなく、その後も継続して支援センターの保育士と関わりが可能となる。 ・昨年度まで健康課で実施していた10か月フォロー教室(遊びの教室)及び8か月健康相談も、拠点型子育て支援センターが、保健福祉センターで実施する。		
	市民 子育て中 の市民		健康課	・出生数は減少しているが、訪問や相談等の件数は決して減少していない。より丁寧な対応が市民からは求められており、今年度も、子育てに対する不安の軽減につながるよう支援に努めていきたい。 ・昨年度同様に関係機関との連携により対応していく予定。		・訪問活動 産婦訪問240件、新生児・乳児訪問 242件 ・8か月児健康相談 24回/年(遊びや手づくりおもちゃを学ぶ・仲間づくり・計測等)対象児444人 参加人数342人(77.0%) ・10か月児健康相談 24回/年 対象児435人 参加人数416人(95.6%) ・乳幼児健康相談 実施回数34回(フォロー児・希望者の相談) ・発達相談 年間68日 延べ183人(実163人) ・随時相談(各地区担当の保健師が担当児のフォローを実施)(予防接種や育児について電話や窓口で相談実施)	継続実施		

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成26年度目標	評価	平成26年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成27年度目標	H27機構改革による担当課
2、子育て・親支援体制の充実	⑤乳幼児検診の充実	市民	健康課	・前年と同様に健診未受診者に対しては健診の案内を未受診確認後2回まで送付する。その後は担当から連絡という形をとる。それでも把握できない時には、保育園や幼稚園・こども園等の連絡会実施時に挙げ、状況把握に努める。 ・歯科に対する取り組みを充実させ、乳児期早期からの予防に努める。	B	・4～5か月児健診 97.5% ・1歳8か月児健診 96.4% ・3歳6か月児健診 95.1%と健診受診率は高い。 ・股関節検診 受診者423人 ※少しでも受診しやすいように、受付時間を2部制にし、集団指導を導入、待ち時間を少なくする工夫をした。昨年度の受付時間では、不具合が生じたので、今年度より時間帯の見直しを実施した。また、4～5か月児健診の待ち時間を利用して、受診の親子全員に対して絵本の読み聞かせを導入、1歳8か月児健診に職活動性試験を導入し、その後のフォローとして2歳で歯トキカラ教室を実施した。対象児130人20回参加児51人 ※歯科衛生士を週3日であるが雇用し、歯科医師や歯科衛生士の取りまとめおよび事業内容の充実、小・中学校における健康教育等むし歯率の高い本市の歯科に対する意識づけを行った。	4～5か月児健診において、今年度4月生まれの対象が4～5か月になる9月より、ブックスタートを実施。昨年度までは、読み聞かせのみであったが、今年度からは、読み聞かせにプラスして絵本のプレゼントを実施(社会教育課・家庭教育支援チームヘスティア)	
		子育て中の市民	市民病院	小児科医の充実		小児科体制は、医師2名のままで、拡充についてはH27年度から3名体制を予定している。	小児科医の充実及び性暴力支援センター和歌山mineとの連携	
	⑥産婦人科・小児科・救急医療の充実	市民 子育て中の市民	都市整備課	園内のバリアフリー化工事の実施及び老朽遊具の改修を引き続き行う。		バリアフリー化 7公園 老朽化遊具交換 7公園	老朽化遊具交換 15公園	
			社会教育課	放課後子ども教室推進事業・学校支援地域本部事業実施、児童館における親子の居場所づくり、保護者のつながりづくり、家庭教育支援チーム委嘱事業実施及びこれらの事業の広報、周知活動を通じてボランティア登録も同時に呼びかけひろげていく。		・放課後子ども教室で地域の大人と交流しながらの子どもの居場所づくり ・学校支援地域本部事業で地域人材を学校で活用し、地域のつながりづくり ・児童館での親子の居場所づくり、手作りを通しての保護者のつながりづくり ・家庭教育支援チームヘスティアによるシニアカレッジへの協力	放課後子ども教室推進事業・学校支援地域本部事業実施、児童館における親子の居場所づくり、保護者のつながりづくり、家庭教育支援チーム委嘱事業実施及びこれらの事業の広報、周知活動を通じてボランティア登録も同時に呼びかけひろげていく。	
			中央公民館	市民活動事業や子育て支援事業との連携を図り、地域の活性化につなげていく。		生涯学習推進計画策定及び今後の公民館子育て事業を行っていくため子育て世代を対象にしたシンポジウム「ママ・パパのおしゃべり広場」を開催し、「楽しい子育てで?」「子育てしやすい地域とは?」等のテーマで話し合われた。	男女共同参画の視点をふまえ引き続き事業を行う。	
			紀見地区公民館	地域の大人が、子どもたちのために何が出来るかを考え合い多世代が共に育つ機会を提供する。		学びと交流を目的とし3世代交流『アンサンブルコンサート(乳児～高齢者・50名)』。地域の特性を生かした恒例事業として、全世代対象『みどりのさくらまつり(300名)』『親月会(210名)』『ふる里よいとこ探しナチュラブレイク・2分の1の成人式(1330名)』を開催。男女年齢を問わず多数の参加があった。	市民が主体となって事業が実施できるよう工夫し、継続して実施	
			紀見北地区公民館	子どもから高齢者までの交流の場として「夏まつり」等を継続実施し。また多世代が参加できるカラオケ大会を開催する。		子どもから高齢者まで参加できる事業として恒例の「夏まつり」を7月に開催。二千人を超える参加があり、地域の年1回まつりとして定着。また11月には「紀伊見峠ふるさと展望」を開催。かごを担いだり仮装をしたりして、紀伊見峠の頂上を目指す。H26年度も千人近い参加者があり地域住民のみならず、遠方から来場してくれる人もいた。	子どもから大人まで一緒に参加できる企画を考える。	
			恋野地区公民館	事業を継続実施し、広く広報する。		年2回の三世代交流(130名の参加)、盆踊り大会、文化祭(262名)、又、フリースクールでは、地域の大人のみに講師となってもらい多世代で物づくりや、キャンプファイヤーなども取り入れ交流をしている。	継続実施	
			学文路地区公民館	学校、共育コミュニティ本部との連携強化を継続、地域人材(講師・ボランティア)の発掘、多世代参加の事業を強化する。		地域ふれあいルームやわんぱくKID'S(9回/153人参加)などで地域と連携し実施した。	地域は人材の宝庫なので、人材育成や新人材の発掘を目指して、交流事業を強化したい。	
			⑦多世代の遊びと交流の場の確保	市民		地域と協力し、創意工夫をしながら引き続き実施する。	開館30周年を記念して「ウインズミニライブ」(約320名・10歳～80歳台)を開催。年齢性別を問わず、また地域住民のみならず全市民的に多数の参加があり交流の場となった。実施にあたっては30周年記念実行委員会が運営。『盆踊り大会』(約800名)。『三世代交流会』(男性6名・女性66名・園児33名・3歳～80歳台)『こんには☆えほん』2回実施(男性9名・女性35名・中高生5名・子ども45名・0歳～50歳台)	多くの中高生ボランティアに参加の呼びかけを行い、継続実施する。
			橋本地区公民館	公民館や地域で活動している方々の活躍の場の提供と、子どもとの交流を持つ事を目的として引き続き実施する。	公民館や地域で活動している方々の活躍の場の提供と、子どもとの交流を持つ事を目的として「子どもサマースクール」(全7回98名)、「子ども将棋教室」(全11回61名)「親子クッキング」(全2回22名)「ヘラブナ釣り体験」(9名)を実施。ブロック活動として、地域での盆踊り、グラウンドゴルフ、ハイキング等を実施。男女、年齢を問わず多数の参画がある。	継続実施		
			西部地区公民館	地域住民の交流が深まる「ふれあって!せいぶ」を引き続き実施する。	「ふれあって!せいぶ」は20回を迎え、世代間の交流の場となっている。	継続実施		
			高野口地区公民館	子どもからお年寄りまで楽しめる「盆踊り大会」や「文化祭」などを企画する。	子育てサークル「ふれんず」を本館主催で毎週第2・第4金曜日に実施その他「盆踊り大会」「文化祭」などを開催	子育て支援の取組を継続して行っていくとともに、学校と地域の連携のもと多世代の交流につながる行事を実施していきたい。		

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成26年度目標	評価	平成26年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成27年度目標	H27機構改革による担当課
3、介護支援体制の充実	①介護保険制度の充実	市民	介護保険課	来年度に制度改正が控えており、夏以降に順次詳細が明らかになるため、出前講座等による周知を行っていく。	B	老人クラブ、民生委員児童委員、高齢者部会、地域ケア会議などから介護保険制度の概要や制度改正についての説明依頼を受け出前講座を実施し、制度の周知を図った。	引き続き依頼による出前講座の実施を行う。	
	②障がい者自立支援制度の充実	市民	福祉課	施設建設等運営状況を考慮に入れながら協議していく。		新たな施設建設等の協議などはなかった。	引き続き利用者ニーズと施設建設等運営状況を考慮に入れながら協議していく。	
	③介護に対する意識改革の推進	市民	いきいき長寿課(地域包括支援センター)	人権問題として虐待やDV、男女共同参画について啓発できるよう努める。		介護予防事業として、高齢者グループの支援を行った。げんきらりー教室(筋力向上トレーニング自主運営教室、ふれあいサロン事業への継続的な関わりを行い、介護予防や介護についての相談窓口の啓発を行った。	人権問題として虐待やDV、男女共同参画について啓発できるよう努める。	
	④ノーマライゼーション「優しいまちづくり」の促進	市民	いきいき長寿課(地域包括支援センター)	認知症サポーター養成講座を引き続き実施する。		認知症サポーター養成講座を多方面で開催し、合計915名が受講された。特に、保健福祉センターで行った講座には当初予定をはるかに超える200名の参加があり、関心の高さが確認できた。小学生、民間企業への積極的な開催も実施。	継続実施するとともに、認知症キャラバンメイトの方々が、サポーター養成講座を開催していけるよう再考していく。	
福祉課			弱者に対するサービス低下がないようよびかけを行う関係各課と連携して対応する。	公的施設(公園等含む)への多目的トイレの設置を行った。(おもてなしトイレ)	弱者に対するサービス等低下がないようよびかけを行う関係各課と連携して対応する。			